

飛鳥資料館 秋期特別展「祈りをこめた小塔」

今回の特別展では、日本や中国でつくられた小塔を展示します。

日本の小塔として知られるのが百万塔です。百万塔は、奈良時代に称徳天皇が造立を発願しました。現在は法隆寺に伝存するほか、平城宮跡からは未成品も出土しています。

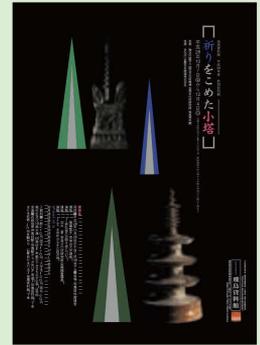
中国では五代十国時代、銭弘俶八万四千塔とよばれる小塔がつけられました。呉越国最後の王である銭弘俶が955年頃から約10年をかけて造営したといわれ、日本にも12点が伝わっています。

これらの小塔は、内部に陀羅尼という経典を納めたことから法舍利塔と呼ばれます。国を安らかに治め、亡き人を弔うために、為政者たちは多くの小塔を造立したのです。

また、庶民信仰にも小塔供養をみることができます。追善供養や、自らの滅罪、延命、長寿等の祈りをこめた泥塔がつけられました。

時代と場所を越えて、小塔にこめられた祈りに思いをはせていただければ幸いです。

(副所長 杉山 洋／飛鳥資料館 西田 紀子)



会 期：10月7日(金)～12月4日(日)月曜休館(祝日の場合は翌平日)

開館時間：9：00～16：30(入館は16：00まで)

講演会：11月26日(土)13：30～、於：飛鳥資料館講堂 服部 敦子(帝塚山大学講師)「銭弘俶八万四千塔について」

森本 晋(奈良文化財研究所企画調整部長)「データ分析からみた百万塔」

ギャラリートーク：10月28日(金) 10：30～、13：30～

ホームページ：<https://www.nabunken.go.jp/asuka/> お問い合わせ：☎0744-54-3561(飛鳥資料館)

編集 「奈文研ニュース」編集委員会
発行 奈良文化財研究所 <https://www.nabunken.go.jp>
Eメール jimu@nabunken.go.jp
発行年月 2016年9月